

令和6年度 江戸川区立下小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自ら考える子・・自ら学び他者と協力して課題を解決する子 心豊かな子・・多様性を認め他者と共に生きる優しさをもつ子 たくましい子・・何事にも自ら挑戦しようとする前向きな子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	元気に登校、楽しく生活、満足して下校できる 笑顔あふれる学校 みずからチャレンジ 笑顔かがやく 下小岩の子 チームとして協働し、互いに切磋琢磨する教職員
前年度までの本校の現状	成果	<ul style="list-style-type: none"> ベーシックドリルの推進と定着 高学年における教科担任制の実施 体力の向上における取り組み 学校ホームページの運営と情報の発信 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 読書科の活動や図書ボランティアの活動をより多く発信していく 生活科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳の時間の共生社会ビジョンを活用した授業の実施 保護者アンケートを基にして、より充実した教育活動の実施 学校における「働き方改革プラン」の継続的な実施

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案	
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント		
学力の向上	○授業改善の推進 ○基礎学力の保障	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の徹底 黒板掲示カードを活用した問題解決的な学習の実施 学年間教科分担任の実施 算数スタンダードを活用した授業の実施 民間と連携した補習教室の活用 学習タイムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童肯定的評価80% 実施率100% 全学年で教科分担任の実施（道徳科の交換授業を推進） 全担任の年1回の授業実施 補習活用100% ベーシック診断Aと比較しBの定着率10%アップ 週15分×2の時間の保障 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で道徳科の交換授業を実施している。 ベーシック診断では定着率10%アップは達成できていない。 全国学力調査の結果で算数が都の平均と同じとなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 算数では学力テストの結果からB層が少ないことが分かった。C層の児童をどうB層に引き上げていくかに課題がある。 学校評価のアンケートから、「楽しく分かりやすい授業が行われている」に90%以上の児童が肯定的な評価をしている。 教科分担任の全学年での実施率100% 算数スタンダードを意識した校内研究授業を全学年で実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートから学習への意欲が高まっていると感じる。できない子供達をどのように育てて行くのが課題と思う。 読み書きの力は、引き続き伸ばして欲しい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> OJTを組織的に活用し、若手の授業力向上を図っていく。 国語スタンダードを活用した授業の実施を通して、児童の読解力を上げていく。 		
	○一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 週2回授業支援アプリを活用した学習タイム（東京ベーシックドリル補習）の確実な実施 1日1回のICTを活用した授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 実施率100% 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ミライシードやオクリンクを活用した授業は増加傾向になる。 タブレット端末を活用した学習活動は概ね実施できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの良さを活かせる内容での活用はいいが、国語の書く力などは紙を活用すべきではないか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 週2回授業支援アプリを活用した学習タイムの時間の確保 1日1回以上、ICTを活用した授業の達成 	B	<ul style="list-style-type: none"> タブレットでの学習もいいが、紙に書くことの学習も大切にしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 4年生以上の放課後EDOスクールを基にして、C層児童の基礎的な学力の定着化を図る。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 「江戸川っ子 読書科コンクール」の全員参加 教科指導で学校図書館の積極的活用 公共図書館との連携強化 よむYOMUワークシートを活用した家庭学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 学級で週1回以上の活用 年間1回以上の図書館と連携した授業支援 週1回以上、読書科や家庭学習で活用 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 「区 読書科コンクール」全員参加に向けて、本に触れる機会を増やした。公共図書館の書籍も積極的に活用できた。 よむYOMUワークシートを活用した家庭学習を5・6年で週1回以上の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍児童が課題にも関わるためには、教師側も工夫が必要となる。 よむYOMUワークシートを大いに活用して、児童の読解力を向上させてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「江戸川っ子 読書科コンクール」の参加率100%達成し、代表児童を表彰することによる意欲付けを図った。 年間を通して4年生以上で「よむYOMUワークシート」を活用した家庭学習での活用を実施し、3年生でも読書ワークシートを活用できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 読書が好きな児童が増えていることはいいことだと思う。新聞記事を読むことは、読解力を伸ばすことにつながると思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校で読書家を推進し、読書に対する児童の興味・関心を広げていく。 新しい学習図書館を有効に活用し、児童の読書環境を整えていく。
体力の向上	○体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全員外遊び（中休み）の奨励 中休みを活用した運動遊びの取組 体力テストの実施と分析 	<ul style="list-style-type: none"> 学級の実施率90% 年間を通して全学年実施 体力テストの結果が全項目10%の向上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級の実施率90%を上回っている。 体力テストの結果を踏まえ、なわとびウィーク等を活用して体力の向上を図っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 水泳をとでもよく頑張っていた。外遊びも活発に行う姿が見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全員外遊びの実施率85.9%を達成。 体力テストの結果は「上体起こし、20Mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び」の4項目が都の平均を上回った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員が子ども達と毎日遊ぶことはとても素晴らしいことだと思う。 校庭が狭いのに、よく運動に取り組んでいると思う。体力テストの結果が向上しているのは素晴らしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の体力テストの結果を分析し、高めていくべき技能を明確にして取り組む。
	○食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士による食育に関する授業を年間1回以上の実施 生活リズムウィークの実施 給食後の歯みがき指導の実施 給食後の歯みがきを全学年で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 年2回実施 養護教諭による歯みがき指導を各学年に年1回の実施 健診結果を基にした掲示物での周知 全学年100%実施 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムウィークではタブレット端末を使ったアンケートを実施し、意識の向上を図った。 毎月、児童の健康に関わる掲示を推進している。 給食後の歯みがきを全学年100%実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、「早寝、早起き、朝ごはん」を意識させていけるようにしたい。 給食の対応に学級差はないか。食育の観点を踏まえながら、楽しい給食となるようにしていただきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全学級で給食後の歯みがき指導の実施100% 栄養士による食育に関する授業を全学年で年間1回以上の実施100%を達成。 健診結果を基にした掲示物での周知を年間を通して実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 給食を楽しく食べられる子どもを増やしていくことは大切だ。昔のように、食べるまで時間が終わらない指導はすべきではない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士を中心にして、食育に関する出前授業を全学年で実施していく。
	○なわとびチャレンジの推進	<ul style="list-style-type: none"> なわとびチャレンジウィークの設定 なわとびカードの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回の実施 なわとび出前授業を年間1回全学年で実施 なわとびの技能20%向上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に予定通りに実施 なわとび技能を向上させるための体育授業の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びと同様に、日々の積み重ねを通して体力を向上を目指してほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> なわとびチャレンジウィークの実施100%を達成。 なわとびカードを全校児童で活用し、学校全体として技能が大きく向上し、区代表として表彰を受ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が、目標をもって取り組めるように指導して欲しい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとのなわとびチャレンジの内容の見直しを図り、児童が意欲的に取り組める実施計画を立てる。

教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育研修会 年3回実施 校内委員会 月1回情報共有 副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 教材教具や掲示物の工夫、視覚的支援 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 実施率100% 年2回の交流を実施 教員、児童肯定的評価80% 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月に特別支援教育研修を実施。 副籍交流を1年生で実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 副籍交流は児童と関わることはとても意味があると感じる。 各学級内にある課題のある児童にも丁寧に支援して行ってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育研修会、年3回実施の達成。 校内委員会を月1回実施し、年間を通して情報の共有を図った。 主に1年生との副籍交流が年間6回実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な子ども達の状況に合わせた指導を心がけて行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の特別支援委員会を基にして、巡回指導教員や巡回心理士、またSSWやSCとの連携を密にしていける。
	○エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの教職員の協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 協力体制表の作成及び随時対応 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 適宜相談をしながら、協力体制を組むことができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き協力して取り組んでほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員と教職員の実施内容の共有の達成率100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 困っている子ども達が相談しやすい環境を引き続きつくってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の内容を充実させる。(講師の招へい、巡回指導動画活用など)
	○持続可能な社会の実現に向けて学びのある教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川区「2030年SDGsビジョン」「2100年共生社会ビジョン」を活用した授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 10月のSDGs給食の実施を通して、児童への理解を広げる。 校内にSDGsに関連した内容の掲示。 	C	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに関連させた取り組みを見せていくことは難しいが、地域に発信して行ってほしい。 社会のことを考えていける児童の育成を目指してほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の実現に向けて、5年生で車椅子やフラインドサッカー体験を実施。 6年生の総合的な学習の時間で地域と共生を目指した「こいわ未来プロジェクト」を通しての学習活動を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川区の取り組みとともに、地域を大切にできる子ども達を育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間を基にして、地域や区としての取り組みに児童が興味・関心を広げていける学習内容を推進する。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対策の実施・充実 ○教育相談の強化	<ul style="list-style-type: none"> SSWや外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関と繋ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各機関と連携を図りながら、児童の情報を共有している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き協力して取り組んでほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通してSSWや外部機関と連携を図り、不登校や支援が必要な児童の情報を共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き取り組みを続けて行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間や関係機関とも連絡・報告・相談を徹底し、早期対応を実践していく。
	○生活指導連絡協議会の活用 ○人権意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、生活アンケート・いじめ関連の道徳授業の実施。 「江戸川区子どもの権利条約」について授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 実施率100% 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期にアンケートを予定通りに実施。 2学期に全学年でタブレット端末を活用して学習する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の問題に対して、先生達は丁寧に対応していると思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、生活アンケート・いじめ関連の道徳授業の実施率100%。 江戸川区議会の訪問を通して、「江戸川区子どもの権利条約」についての学習を5年生で実施。 子どもの権利条約について校長による講話実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの問題は根深い。簡単に解決することはできない。時間をかけてしっかりと対応して行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席数の多い児童の状況を把握し、校内での情報を共有と迅速な対応を図る。
	○いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ○hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止研修会の年1回実施 hyper-QUの分析を実施し、学級経営に生かす 	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修プログラムを基にした年9回の研修を実施 いじめ対応の継続事業の達成 QU研修の実施 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に全職員で研修を実施。 6月にいじめアンケートを実施。 hyper-QUを6月に全学級で実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童の問題に対して、先生達は丁寧に対応していると思う。児童は毎日楽しそうに登下校する姿が多く見られる。 いじめを許さないとの意識は引き続き高くもってほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめの防止に向けた研修会を年1回実施。 道徳科を通じて「生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心の育成」は87.7%の児童が肯定的な評価。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全体で問題を共有して対処していくことを大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケートの結果を全体で共有し、家庭、学校、外部機関の連携をより充実させ、不登校児童と家庭の不安解消を図る。
学校(園)の地域社会に開かれた実現	○学校(園)ホームページの充実等 ○学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> P T A活動、地域行事への参加、HP等による情報公開 学校日記の更新を年間150回以上 	<ul style="list-style-type: none"> HP、連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信 実施率100% 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月より主要となる便りをtotoruで発信している。 学校日記は予定通り更新している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域は紙で配布する方が見やすいが、保護者へはtotoruでの配信でよい。 ホームページの更新はもっと意識をもって見ていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期より連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信を92.4%の保護者が肯定的な評価。 学校日記の更新を年間212回を達成。(1月現在) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 配信していく方が、確実にすべての保護者に伝わりやすい。ただし、内容によっては、紙ベースでのお手紙も大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> totoruの有効活用による情報提供のデジタル化を促進する。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> 年3回 学校評議員会の実施 保護者アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 保護者アンケート肯定的評価80% 	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事ごとに保護者へのアンケートを実施し、肯定的な評価が増加。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の声を活かして、学校の教育活動の充実を図ってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートから「学校の教育目標や方針を分かりやすく説明している」の項目に87.3%の保護者が肯定的な評価。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の考え方、質問の内容には吟味していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みごとに改善点を点検し、教育効果を高めるための振り返りを随時実施する。
教育の特色ある	○校内研究「算数科」における授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 年間1回の研究授業を各学年で実施 区学力向上プロジェクトと連携した「アイテム算数」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 3年～6年で使用し、個別最適な学びを推進 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 5年、6年、3年まで研究授業を実施した。 アイテム算数の研修を実施。 3年～6年でアイテム算数を授業で活用できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実も図れるようにして行ってほしい。算数も国語も毎日の小さな積み重ねを大切にしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間1回の研究授業を各学年で実施100%。 区学力向上プロジェクトと連携した「アイテム算数」を3年以上で活用し、実践例についての取材を2学期に受けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 算数のどの力を伸ばしていくのか、教員間でしっかりと共有して取り組むことが大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> アイテム算数を全学年で活用し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。
	○異学年交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> たて割り班活動を毎月実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月より3回、6年生が中心となって活発な活動が行われている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 上級生が下級生のために考えて行動することはとても素晴らしい。引き続き取り組んでほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流の推進を目標とした「たて割り班活動」を年間8回の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学年で関わりあうことは、これからも続けて行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> たて割り班活動がより充実していくよう計画の見直しを図っていく。

<p>展 開</p>	<p>○「学校における働き方改革プラン」の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退勤日の設定 ・業務内容の精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間12回実施 ・学校評価を活用した業務内容の精選、改善 ・時間外勤務時間年間45時間以上の職員を2割以下 	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤する職員の数が増加傾向にある。 ・業務内容の精選や改善は継続的な課題となっている。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・残業を減らすには、目標をしっかりと決めて取り組むことが必要。もっと目標数値を明確にしていくべきではないか。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退勤日の設定を実施。 ・時間外勤務時間45時間以上の職員、月平均23%を達成。 ・職員を対象としたストレスチェック集団分析では、「総合健康リスク69」と良好な結果となった。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革は難しい。仕事の手を抜くことはできないので、それぞれの役割を見直していくことが大切になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容の充実を伴った時数の見直しによりゆとりを生み出し、人材の活用や一斉退勤日など具体的な校務負担軽減策を実施する。
----------------	-----------------------------	---	--	----------	----------	----------	---	----------	--	----------	---	----------	---	---